

11. ニューモント社(Newmont Mining Corporation)

1. 企業概要

本社	米国・デンヴァー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬
従業員数	10,600人(2001年12月末、バツ・ヒジャウ鉱山の従業員4,000人を含む)
決算日	12月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤナコチャ社 (Minera Yanacocha SA: 51%) ・ バトル・マウンテン社 (Battle Mountain Gold Company: 100%) ・ ノルマンディー社 (Normandy Mining Ltd.: 100%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2001年	2000年	1999年
売上高 Sales	1,656	1,555	1,399
当期利益 Net income (loss)	(23)	(19)	25
資産 Total assets	4,062	3,511	3,383
流動資産 Current assets	709	512	508
負債 Total liabilities	2,582	2,044	1,932
流動負債 Current liabilities	486	291	274
株主資本 Shareholders' equity	1,480	1,466	1,452
探鉱費 Exploration & research	55	64	58

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2001年	2000年	1999年	2001年の 世界シェア
金 (t)	168.8	153.7	129.9	6.5% (3位)
銅鉱石 (000t) ¹	167.6	132.9	12.5	1.0% (19位)

4. 沿革

ニューモント社は、銅、金などの非鉄金属事業、石油、天然ガス、石炭などのエネルギー資源事業を対象とした持株会社として設立された。80年代後半より事業を金に特化し、2001年の産金量は世界3位であるが、2002年2月に豪 Normandy 社及び加 Franco-Nevada 社を買収し、Anglo Gold 社を抜いて、世界第1位の金プロデューサーとなっている。

1921年、ニューヨークの投資家 C. W. B. Thompson 氏は、エネルギー・鉱物資源を対象とした持株会社 Newmont Corp.社を設立、25年にはニューモント社と社名を変更した。「Newmont」は、New York と Thompson 氏の故郷 Montana に因んだものである。なお、同社設立当時の権益保有会社には、ハドソン・ベイ社 (Hudson Bay Mining & Smelting Co Ltd.)、マグマ・カッパー社 (Magma Copper Co.) などがある。

当初、ニューモント社は投資専門会社として事業を立ち上げたが、設立後すぐに鉱山開発・経営に進出、30年代前半までに北米で12の金鉱山を操業するに至った。また、ペルーに探鉱活動を目的とした New Verde Mines Co.社を設立、南アフリカではニューモント社自らが O'okiep 鉱山の探鉱・開発に乗り出すなど、国内外を問わず金、銅を対象として幅広く事業を展開した。しかし、世界恐慌、ルーズベルト不況などの影響による金属価格の下落、探鉱・

¹ SX/EW で処理された鉱石を含む。

開発の不調が原因で、30年代は業績が伸び悩んだ。

第二次大戦後、O'okiep 鉱山、Tsumeb 鉱山（ナミビア）における高品位な銅鉱石の生産が始まり、マグマ・カッパー社によるサン・マヌエル鉱山（San Manuel：アリゾナ）発見と同社に対する増資、SPCC社（Southern Peru Copper Corp.：ペルー）およびパラボラ鉱山（Palabora Mining Company：南アフリカ）を含む国外企業への投資の成功などが重なって、ニューモント社は飛躍的な成長を遂げた。

61年、ネバダ州カーリン地方においてカーリン・トレンド金鉱床帯（Carlin trend）を発見、65年にはCarlin Gold Mining Co.社を設立して同鉱床帯の操業を開始した。

77年、コンソーシアムにより国内最大の石炭プロデューサーPeabody Holding Co. Inc.社の権益50%を取得した。

85年、インドネシアにおいて現地企業とのJ/VでPT Newmont Nusa Tenggara社を設立し、スンバウ島（Sumbawa）の1.23百万ha以上の鉱区について第4世代CoW（Contract of Work：インドネシアの外国資本に対する探鉱・開発契約）を締結した。88年には、同鉱区においてバツ・ヒジャウ鉱山を発見した。

86年、Carlin Gold Mining Co.社はニューモント・ゴールド社と社名を変更した。

87年3月、資産整理・負債返済の一環として、既に権益100%を保有していたマグマ・カッパー社の権益80%を株主に特別配当し、5%を自社の従業員に割り当てた。当時、マグマ・カッパー社はアリゾナにおける銅製錬設備の拡張、酸化鉱リーチング設備の新設、さらにはニューモント社が持つピント・バレー鉱山（Pinto Valley）の買収を進めており、資金繰りが悪化していた。88年、残りの権益15%をマグマ・カッパー社自身に売却し、同社はニューモント社から完全に独立した。さらに、ニューモント社は、石油、ガスおよび米国、カナダ、南アフリカなどに所有していた銅資産を処分し、事業対象を金に特化した。

89年、本社をニューモント・ゴールド社と同じコロラド州デンヴァーに移転した。

97年、ネバダ州に複数の金鉱山・鉱石処理プラントなどを保有するサンタ・フェ社（Santa Fe Pacific Gold Corp.）をUS\$2,400百万で買収、ツイン・クリークス鉱山などを取得して、世界2位の金プロデューサーとなった。

98年、ニューモント・ゴールド社の残りの権益6.25%を買収し、同社を100%子会社とした。この買収により、94年より進めていた両社の系列化が完了した。

00年6月に、カナダ、オーストラリア、ボリヴィアに金鉱山を有する米Battle Mountain社の買収を発表し、01年1月に買収を完了した。

01年には豪Normandy社の買収を発表し、Normandy社との合併を進めていた米Franco-Nevada社とともに02年2月に買収を完了した。これに伴い、カナダTVX Gold社とNormandy社とのJVであるTVX Normandy Americas社の資産も引き継ぎ、TVX Newmont Americas社となった（TVX Gold社50.1%、ニューモント社49.9%）。

5. 事業内容

ニューモント社は、米国、カナダ、メキシコ、ペルー、ボリヴィア、オーストラリア、インドネシア、ウズベキスタンの金鉱山に権益を有している。これらに加えて、Normandy社の買収により、ブラジル、チリ、ニュー・ジーランド、トルコ各国の金鉱山の権益を取得した。

(1) 北米

米国・ネバダ州にカーリン金鉱床帯（Carlin Trend）の各鉱山を中心に9露天掘鉱山、5坑内掘鉱山を有する。これらの鉱山の鉱石は、高品位酸化鉱、低品位酸化鉱、高品位難溶鉱、低品位難溶鉱毎に17の処理場で処理されている。また、米国ではカリフォルニア州にメスクイット鉱山を保有する。カナダでは、ゴールデン・ジャイアント鉱山、ホローウェイ鉱山を保有する。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ネバダ州 (米国) ² Nevada	100	458.2	OP、UG	2.1 g/t	83.9 t
メスキット (米国) Mesquite	100	8.4	OP	0.4 g/t	2.9 t
ゴールデン・ジャイアント (カナダ) Golden Giant	100	3.6	UG	9.0 g/t	8.0 t
ホローウェイ (カナダ) Holloway	89.35	3.8	UG	5.9 g/t	3.2 t (2.8 t)

また、TVX Normandy 社が北米に有する鉱山の生産量は次のとおりである。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 ³ %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ムッセルホワイト (カナダ) Nevada	31.9	12.9	UG	5.6 g/t	7.3 t (2.3 t)
ニュー・ブリタニア (カナダ) New Britannia	50	1.1	UG	4.9 g/t	3.6 t (1.8 t)

この他に、Normandy 社はネバダ州に Midas 鉱山 (100%) を所有しており、同鉱山の埋蔵量は 3.4 百万トン、金品位 20.8 g/t、2001 年の生産量は 6.2 t であった。

- ・ ニューモント社の金生産の約 50% をネバダ州での生産が占めている。ネバダ州での金生産は、鉱石の種類・品位の応じて処理方法が異なるが、難溶鉱の比率が高まりつつある。2001 年末における埋蔵量に占める難溶鉱の比率は約 75% であり、今後高コストの難溶鉱及び深部からの鉱石からの生産が増えると予想されている。

(2) 中南米

ペルーのヤナコチャ鉱山、メキシコのラ・エラドゥラ鉱山、ボリヴィアのコリ・コジョ鉱山に権益を有する。また、TVX Newmont 社を通じて、ブラジルのモロ・ドゥ・オロ鉱山及びセラ・グランジ鉱山、チリのラ・コイパ鉱山の権益を獲得した。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ヤナコチャ (ペルー) Yanacocha	51.35	1,218	OP	0.9 g/t	59.2 t (30.4 t)
ラ・エラドゥラ (メキシコ) La Herradura	44	47	OP	1.0 g/t	3.9 t (1.7 t)
コリ・コジョ (ボリヴィア) Kori Kollo	88	22	OP、UG	1.0 g/t	9.5 t (8.4 t)

- ・ ヤナコチャ社 (ニューモント社 51.35%、ブエナビエンチュラ社 (Compañia de Minas Buenaventura S.A.A.) 43.65%、国際金融公社 (International Financial Corporation) 5%) を通じて、ヤナコチャ鉱山の権益を有する。ペルー北部に位置するヤナコチャ鉱山は、生産

² カーリン・トレンド鉱床帯、ツイン・クリークス (Twin Creeks) 鉱山、ローン・ツリー (Lone Tree) 鉱山の合計。

³ 権益比率は TVX Normandy 社の数字

を開始した 93 年以降めざましい開発が進み、5 つの露天掘採掘場(Carachugo、Maqui Maqui、San Jose Sur、Cerro Yanacocha)、4 つのリーチング施設、2 つの処理プラントを有する。なお、2001 年第 4 四半期に La Quinoa 鉱床からの生産を開始した。

- ・ ラ・エラドゥラ鉱山は、メキシコのペニョーレス社(Industriales Peñoles, S.A. de C.V.、56%)との J/V で、98 年に生産開始、露天堀・ヒープ・リーチングによる生産を行っている。
- ・ Minera Inti Raymi 社(Minera Inti Raymi, S.A.)を通じて、ボリヴィアのコリ・コジョ鉱山に 88% の権益を有する。同鉱山は 1985 年にヒープ・リーチングによる鉱石処理を開始し、1992 年には硫化鉱処理を開始した。

TVX Newmont 社が権益を有する鉱山は次のとおりである。モロ・ドゥ・オロ鉱山はリオ・ティント社、セラ・グランジ鉱山はアングロゴールド社、ラ・コイパ鉱山はプラサー・ドーム社との JV である。

2001 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
モロ・ドゥ・オロ (ブラジル) Morro do Ouro	49	370	OP	0.43 g/t	5.8 t (2.8 t)
セラ・グランジ (ブラジル) Serra Grande	50	4.2	UG	7.33 g/t	6.0 t (3.0 t)
ラ・コイパ (チリ) La Coipa	50	41.6	OP	1.2 g/t	3.6 t (1.8 t)

(3) オセアニア

Normandy 社の買収以前は、オセアニア地域のニューモント社の権益はベラ/ナンシー鉱山のみであったが、Normandy 社の買収によりオーストラリアに 5 鉱山、ニュー・ジーランドに 1 鉱山を所有するようになった。

2001 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ベラ/ナンシー (オーストラリア) Vera/Nancy	50	2.4	UG	11.8 g/t	7.7 t (3.9 t)

なお、ベラ/ナンシー鉱山は、Battle Mountain 社の買収により獲得した鉱山で、残りの 50% の権益は Normandy 社が有しており、現在はそれぞれニューモント社の 100% 子会社である、Battle Mountain 社と Normandy 社の 50:50 の JV が操業しており、実質的にニューモント社が 100% の権益を有している。

Normandy 社が所有していた鉱山は次のとおりである。

2001 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 ⁴ %	鉱量 ⁵ 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ブロンズウィング (オーストラリア) Bronzewing	100	6.2	UG	4.2 g/t	9.7 t
ジュンディー (オーストラリア) Jundee	100	8.6	OP	4.6 g/t	12.6 t
ウィルーナ (オーストラリア) Wiluna	100	1.8	UG、OP	4.5 g/t	3.6 t
タナミ・オペレーション (オーストラリア) Tanami Operation	87.45	18.1	UG、OP	4.9 g/t	15.6 t (13.6 t)
カルグーリー (オーストラリア) Kalgoorlie	50	185	OP	2.1 g/t	19.2 t (9.6 t)
マーサ (ニュー・ジーランド) Martha	67.06	6.4	OP	3.4 g/t	3.5 t (2.4 t)

- ・ オーストラリアのポディントン鉱山及びマウント・レイション鉱山は鉱量枯渇のため閉山した。しかし、ポディントン鉱山周辺で金鉱床が発見されており、現在探鉱を継続中である。
- ・ Normandy Mining 社の子会社である Normandy NFM 社 (85.86%) はオーストラリア・ノーザン・テリトリーのタナミ砂漠で坑内掘鉱山を 1 鉱山、露天掘鉱山を 3 鉱山操業している。露天掘鉱山のうち、Groundrush 鉱山は 2001 年 11 月に生産を開始した。なお、Groundrush 鉱山の鉱石は、Otter Gold Mining 社と Anglogold 社の JV である Tanami 鉱山 (2001 年 6 月に閉山) の鉱石処理施設をリースして処理されている。なお、ニューモント社は Normandy NFM 社の残りの権益の買収を発表している。
- ・ ニュー・ジーランドのマーサ鉱山は、Normandy Mining 社が 67.06% の権益を有し、Otter Gold Mining 社が残りの 32.94% の権益を有するが、Otter Gold Mining 社には Normandy NFM 社が 89.17% の権益を有しており、ニューモント社は Normandy Mining 社を通じてマーサ鉱山の権益を 90% 以上有する。なお、Normandy NFM 社は Otter Gold Mining 社の残りの権益の買収を提案しており、これが成ればニューモント社のマーサ鉱山に対する権益は 100% となる。また、上述のように Otter Gold Mining 社はタナミ砂漠に鉱区を有しており、タナミ砂漠における鉱山開発を進める意向もあるものと考えられる。

(4) その他の地域

インドネシアにバツ・ヒジャウ鉱山及びミナハサ鉱山の権益を有する。また、ウズベキスタン・ムルンタウ鉱山尾鉱処理場の権益を有する。加えて、Normandy Mining 社はトルコのオヴァシク鉱山の権益を有している。

⁴ 権益比率は、2001 年末の Normandy 社の直接権益。

⁵ 鉱量は 2001 年末の数字。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
バツ・ヒジャウ(インドネシア) Batu Hijau	45 ⁶	1,000	OP	0.3 g/t Au ----- 0.5 % Cu	16.6 t Au (9.3 t Au) ----- 298 千 t Cu (168 千 t)
ムルンタウ尾鉱(ウズベキスタン) Muruntau Stockpile	50	154.9	-	1.3 g/t	13.5 t (6.7 t)
オヴァシック(トルコ) Ovacik	100	1.2	OP、UG	13.1 g/t	1.5 t

- ・ バツ・ヒジャウ鉱山の選鉱廃さいは深海底に投棄されているが、2001年に環境団体がこれを問題視したが、ニューモント側は問題はないとしている。
- ・ ミナハサ鉱山は、2001年10月に閉山した。ただし、貯鉱による生産を続け、2003年に生産を終了する予定である。
- ・ ムルンタウ鉱山の尾鉱処理は、ニューモント社が50%を出資し、ウズベキスタンの2つの政府機関が25%ずつ出資するザラフシャン-ニューモントJV(Zarafshan-Newmont JV)によって、運営されている。2000年にムルンタウ鉱山からの尾鉱供給に関して、修正に関する合意が結ばれ、少なくとも2013年まで操業ができることとなった。これに関連して、リーチング場の拡張及びコンベアーの新設が行われることとなり、ヨーロッパ復興開発銀行(European Bank for Reconstruction and Development; EBRD)から3千万US\$の融資を受けることが決定した。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

ニューモント社は本社のほか、カナダ東部事務所(オンタリオ)、ネバダ事務所(エルコ)、ヤナコチャ鉱山事務所(ペルー)、南米事務所(ペルー)、中央アジア事務所(カザフスタン)、インドネシア事務所を配置し、探鉱を行っている。

ニューモント社は、探鉱を企業活動の核の一つと考えており、保有鉱山のほとんどが独自の探鉱により発見されたものである。一方で、同社はジュニア・カンパニーへの投資も拡大してきている。

2001年の探鉱予算はUS\$45.0百万で、主要非鉄金属企業中第10位であった。

(2) 対象鉱種

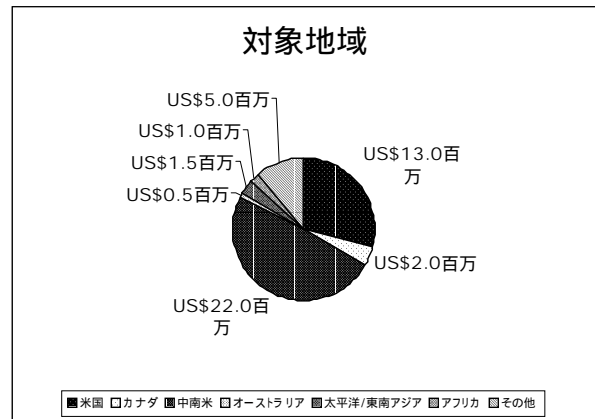
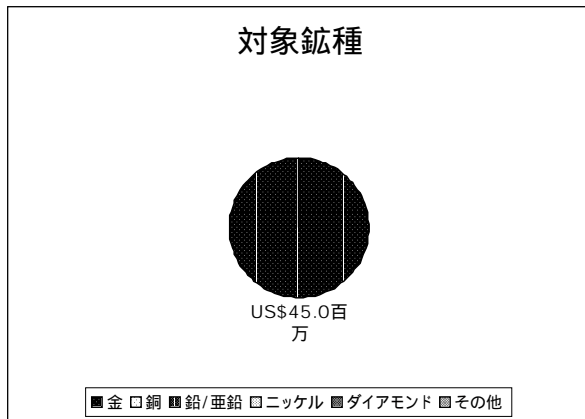
金を対象としている。

(3) 対象地域・探鉱段階

2001年の探鉱予算のうち50%近くが中南米に、30%弱が米国に充てられている。

探鉱段階に関しては、2001年の探鉱予算はグラス・ルーツにUS\$17.0百万(38%)、事業化調査にUS\$5.0百万(11%)、鉱山周辺探鉱にUS\$23.0百万(51%)を充てている。

⁶ バツ・ヒジャウ鉱山及びミナハサ鉱山の生産に対する権益はそれぞれ56.25%及び94%。



(4) 最近の動向

(北米)

ニューモント社の北米での探鉱活動は、ネバダ州のカーリン金鉱床帯やオンタリオ州の既存鉱山の周辺探鉱が主である。

(中南米)

中南米地域では、ペルーのヤナコチャ鉱山周辺の探鉱を主に実施しており、El Tapado 鉱床や Corimayo 鉱床、Chaquicocha Sur 鉱床等が発見されている。

中南米地域ではペルー以外にチリ、ボリビアで探鉱を実施している。

(東南アジア・大洋州)

インドネシアでは、スマトラ島の Martabe 鉱床の探鉱を実施しており、資源量 36 百万トン、金品位 1.9 g/t が計上されている。また、ニュージーランドで Martha 鉱山の周辺探鉱を実施している。

(アフリカ)

ガーナで探鉱を実施しており、Akim、Yamfo-Sefwi、Ntotoroso といった鉱床が発見されている。